

同窓生 シリーズ 50



新39回生
武内俊介氏

日大大学院修士課程
(農学専攻)修了後、
京成バラ園芸に就職。
バラの品種開発に取
り組む。

私の仕事はバラの新品種開発、目的の母親と父親の花を交配して種をまく、そこから得られる星の数ほどの個体の中から一握りの品種を世の中に送り出す。そのバラは世界中の人々の心を魅了し感動を与え、幸せにする事を願う。こんな幸せな仕事に就くことになったきっかけはそう、この母校、新宿高校に入学したことでした。

当時新宿高校では『朝陽バラ会』という団体がバラの植栽作りを始めました。高校に入学した私はすぐにサッカー部に入学し日夜泥まみれになっていましたが、そんな中でも幼少の頃から植物好きで図鑑を作るのが夢だった私はバラの花の時期をいつも楽しみにしていました。

楽しい高校生活は一瞬のうちに過ぎ去り、大学受験を控え進路を考えなければならなくなりました。おりしも、バイオテクノロジー全盛の時、迷うことなく植物の世界に飛び込みました。飛び込むのに一年余分に費やしたことはご愛嬌です。当時の新宿高校生にとって浪人は当たり前前で、ことで友人にどこを受験するか聞かれ、笑いながら「代ゼミ」と言っていました。

そして性懲りもなく大学院に進学。私の研究テーマは分子生物学的手法を用いた植物の系統分類だったので、すがさてどの植物を材料にしましょう、という時に指導教官から提示があったのがバラでした。ある会社でバラを材料として提供してくれるからやってみないかと勧められ、材料を頂きに行った先にいたのはなんと新宿高校にバラの植栽を作った『朝陽バラ会』の創始者、鈴木省三その人だったのです。

なんとという運命のめぐり合わせでしょう。鋭い眼光、時折繰り出される厳しい言葉、今でも鮮明に記憶し

ています。彼はすでにこの世を去られました。彼はそのバラへの愛情と思いは多くの人の心に継承されています。私もそのうちの一人として彼が人生をかけたバラの育種に情熱を傾けています。そして彼が私をこの道に導いた『朝陽バラ会』を通じ、母校のバラのお世話に参加し美しいバラを咲かせることで在校生、同窓生、PTAの皆さんの気持ちを癒し、絆を深め、バラを通じた文化の継承に役立ちたいと考えています。

さて、よく十年一昔と言いますがバラの育種も一つの品種を開発するのに、親になる品種の選定から含めると十年近くの歳月を必要とします。人生も同じです。自分の十年後を想像してみてください。どうなっていたいのですか？何故そのようになりたいのですか？この何故を意識する人は試験や進路でつまずいてもきちんと先に進めるそうです。聞きかじりですが最近私も実感しています。そして常に夢を持ち、人との出会いを大切にすると人生が開けるようです。何だか漠然としていますね。皆さんの人生がバラ色になることを願っています。

編集後記

ただでさえ慌ただしい年度末最終号。1月下旬には入稿、と動きはじめたのが11月半ば。「いまどきの新宿高校生」にどこから追ろうかと彼らの日常を思い浮かべていたら、パソコンや携帯がクローズアップされてきました。アンケートの作成、依頼、集計；あれこれと感想を出しながらまとめる作業。仕事を持つ4人の編集担当のやり取りはほとんどがLINE。そのやり取りは2ヶ月で軽く200通を超えました。ITなくしてはできなかつた広報誌でした。最後になりますが皆様のご協力に感謝いたします。